風土記の丘の花だより271

今、そしてこれから見られる植物（2025年5月3日）

いよいよゴールデンウィークです。といっても、どこに行っても人ばかりで、私はのんびりと野山を歩いている方がいいですね。風土記の丘は花盛り。今回も４つの花をご紹介します。

万葉植物園の入り口に近づくと独特な香りが漂ってきます。カラタネオガタマ、別名トウオガタマの香りです。よく「バナナの香り」と言われますが、これだけきついとバナナどころではありません。写真はつぼみみたいで、まだ全開していませんが、何故かここの株はこれ以上開きません。拙宅のものは右下の写真のように全開します。株それぞれの個性でしょうか。それとも品種の違いなのでしょうか？谷山家の庭にも植えてあります。

谷山家や小早川家の庭でアヤメが咲いています。花びらの真ん中の白い部分に網目模様があるのが特徴です。あやめ　と打って変換すると、菖蒲、文目などと出てきます。一つ目の菖蒲は「しょうぶ」とも読みますね。それでアヤメ、ショウブ、そしてアヤメに似ていて、これから咲くカキツバタが、こんがらがってしまっているのです。さらに、そこにハナショウブも加わって、訳が分からなくなってしまっています。まだ、イチハツなんていう花もありますが、これが正真正銘、アヤメです。

ギンランの花が咲きました。来園者の方が見つけて教えてくださいました。シラン（紫蘭）、コクラン（黒蘭）など、名前に色が付いたランはいくつかありますが、それならこの花はハクラン（白蘭）ですよね。でも、もうすぐ咲く黄色のランとを対にして、「金蘭、銀蘭」という名前になったのです。どちらもしても、こんな野生ランは減少の一途を辿っています。悲しい事ですが、環境の攪乱と、盗掘が原因だと考えられています。大事にしましょう。

ハクウンボクの花が咲いて、ほのかに甘い香りが漂っています。万葉植物園にあるこの木は私が風土記の丘に来た６年前はまだ１メートル余りの幼木でした。誰が植えたものでもなく、おそらく鳥が種子を運んできたのでしょう。それが大きく成長して、今年初めて花を咲かせてくれました。エゴノキ科の木で、花は確かにエゴノキそっくりです。漢字で書くと「白雲木」、真っ白な花を白い雲に見立てた名前でしょう。万葉植物園の上の方にエゴノキがあります。もう少しすると花が咲きます。お楽しみに。　　松下